様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月　 ２ 日現在

機関番号：４４４３４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ００７４３

研究課題名（和文）地域が取り組む親と子の主体性育成を目的とする「しつけ」に関する研究

研究課題名（英文）A study on "socialization" aimed at nurturing the intersubjectivity of parents and children working by the community

研究代表者
寺田　恭子（TERADA, KYOKO）

プール学院大学短期大学部・幼児教育保育学科・教授

研究者番号：３０３６９６７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）： 本研究は、子育て不安や負担感の軽減、虐待予防、またひきこもりや不登校などの二次障害を予防するための、地域の子育て支援者が子育て家庭と共に取り組む「しつけ」プログラムの開発と、その効果検証を目的とした。研究成果として、「子どもの主体性を育てる親の主体性分析シート」の作成、DVDゆりかごラーニング2作＝「楽しいしつけの提案」と「親である自分を大切にする」を作成した。また主体性と関係性の理論を説明したパワーポイントを作成し、多分野の子育て支援者を対象に研修をした。研修後のアンケート調査により、DVDを活用した全体的な研修の理解度は、3点満点中2.76であり、概ね研究目的は達成できたと評価できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to create a program of "child socialization" to prevent abuse, prevention of hikikori, parents' anxiety and burden. As a result of the research, "Parents' own analysis sheet to nurture child's intersubjectivity ", 2 DVD "YURIKAGO Learning" = " Suggesting fun the relationship between parents and child", "Treat yourself as parent" was created. In addition, we created a PowerPoint to explain the theory of reciprocity and relation, and conducted training for multidisciplinary child rearing support. According to the questionnaire after the training, it can be presumed that the research purpose has almost been achieved.

研究分野： 子育て支援

キーワード： 自尊感情　自己肯定感　信頼関係　親の主体性のバランス　認められたい　相互主体性　関心　映像

１．研究開始当初の背景

子育て現場で乳幼児親子に接する専門職者たちの話を聞くと、親の感情的な関わりによって子どもが混乱しているのか、発達障害の特性があるのか、判断が難しい子どもが増えている、という。定型発達の子どもも、障害のある子どもも、どの子どもも主体性を持っていることを前提に考えると、どの子どもにも通用する基本的信頼感が育つ「しつけ」、関係性の基盤である自律性が育つ「しつけ」が求められる。地域の支援者が子育て家庭と共に取り組む「しつけ」プログラムを開発することは、子どもの福祉と育ちを保障し、子育て家庭を支える上で、急務なことであると考えた。

２．研究の目的

本研究は、地域の子育て支援者が子育て家庭と共に取り組む「しつけ」プログラムの開発と、その効果検証を目的とした。本研究は、誰もが持ち備えている主体性に着目し、個と関係性から主体性を捉え、親と子の主体性の育成を目的とする「しつけ」プログラムの開発をめざした。

３．研究の方法

研究全体の枠組みとして、子どもの主体性の起点である親の「子どもの主体受容」を促すために、地域の支援者や親が「親の主体を受容する」という家族システム理論（図 1）をベースにした。

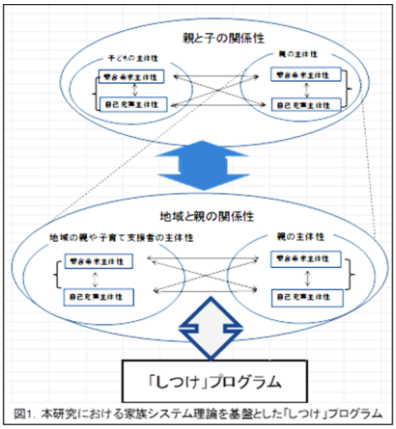

図1. 本研究における家族システム理論を基盤とした「しつけ」プログラム

図１．家族システム理論を活用した「しつけ」プログラム

支援者が主体性を理解するためのプログラム開発として、

（1）親自身と支援者が子どもの主体性を育てる親の主体性を理解するための主体性分析シートの作成

（2）子どもの主体性を育てるしつけ DVD、親の主体性を育てる DVD の作成

（3）「ゆりかごラーニング」DVD と理論を子育て支援者に研修し、アンケート調査によってゆりかごプログラムの効果検証をし、今後の研究課題を明らかにする。

４．研究成果

（1）親の主体性分析シート作成の研究

①研究の目的

本研究は、寺田（2016）の先行研究を基盤にしており、子どもの主体性を育てることを目標に、親自身が子どもとの関係性をふり返り、自己の子育ての課題を明確化するためのツール開発を目的とした。本研究は、家族システムを支援の柱として、主体性育成の流れを組み立てている。つまり、子どもを下位システムとして位置づけるならば、子どもの主体性を育てるためには、親の主体性が育つこと、親の主体性のバランスがとれていること、親と子の相互主体的な関係性が成立していることが重要であり、その親の主体性は、子育て支援者を含む他者との関係性が重要である、ことを理論としている。

本研究におけるそのツールの用い方としては、安井（2009：130-131）の支援方法を参考にした。つまり、親自身の「実感」をキーワードに、客観的に把握された現実と実感を、親と子育て支援者の関係性の中で照合し、整理する過程を通して、親自身が、対処技術（coping skills）や意味を見いだしていく、そういった親と支援者の協働作業の過程の中で、親自身が自己の子育ての課題目標を設定するためのツールとして位置づけた。「主体性」という尺度で測ることが難しい概念を、いかにして構成化して組み立てることができるのか、さらに、親と支援者の協働過程の中で用いるツールとして有効化するために、シートとして視覚化し、活用しやすいものとして開発することが目的とした。

②研究の概要

1)「子どもの主体性を育てる親の主体性」尺度の下位概念と下位項目を作成し（表 1)、調査のための質問項目を作成した。

表１　下位概念別尺度項目

項目文の番号は実際の調査票内の番号である。
親アイデンティティ（親と子の相互主体的な関係性を含む）
⑤親としての今の自分を自分らしいと思います。
⑥自分は親になって良かったと思います。
⑧自分は親としての役割を果たすために努力したいと思っています。
⑫自分の子どもと一緒にいて楽しいです。
⑬自分の子どもの楽しそうな笑顔をみると、自分もうれしくなります。
⑱自分の子どもには、いつも自分から声をかけるように心がけています。
㉖自分は、自分の子どもが今何を欲求しているのか、よくわかります。
②子どもが思い通りにならなくて、つらいことが多いと思います。＊
③子どもとの関係で、感情的になることが多いです。＊
④子どもが目標を達成するまで頑張らせます。†
⑭自分の子どもと一緒にいることから逃避したいと思うことがあります。＊
地域の他者との相互主体的な関係性
⑲地域の他の親と交流して楽しいと感じます。
⑳人間関係を煩わしく思います。＊
⑮自分は他の人の意見によってすぐに影響され、変化してしまうと思います。＊
㉑人の目ばかり気にして、自分を失いそうになるときがあります。＊
㉓自分は、地域や社会の人や友だちと、人間関係でトラブルが多いと感じます。＊
⑰子育ての悩みがあると、すぐに誰かに相談したいと思います。†
親の個体内関係性の安定（自尊感情を含む）
①親として完璧でありたいと思っています。＊
㉔自分は、自分に対して厳しいと感じます。†
㉕自分は、常に目標をもって頑張る人間だと思います。†
⑦自分は親として他の人より優れていると思います。†
㉘自分は、自分に折り合いをつけることが下手だと思います。＊
⑨自分には一人の人間としていいところがたくさんあると思います。
⑩自分は物事を否定的に捉えがちだと思います。＊
世代性（他者への関心を含む）
⑪自分は自分なりの生き方を主体的に選んでいると思います。
㉒地域や社会の人に必要とされる活動をしたいです。
㉗自分は、親として以外の自分に満足していません。＊
⑯知らない人でも困っている人がいると、すぐに助けてあげたいと思います。
＊逆転項目　　†中庸のときに「子どもの主体性を育てる親の主体性」が高くなる項目

2）1）の調査対象者は、2 か所のつどいの広場を利用する保護者 163 名（回収率 100.0%）である。調査票は各施設を通して対象者に配布し、回収方法は各施設にて回収を依頼し、研究者に一括郵送してもらった。調査期間は 2016 年 6 月 10 日から 8 月 31 日である。

3）まず各項目についてＩ－Ｔ分析を行い、各項目得点が全体の得点の動きと連動しているかを確認した。次に、項目得点が中庸な場合に「子どもの主体性を育てる親の主体性」が高くなる項目を除く 23 項目を用いて因子分析を行い「子どもの主体性を育てる親の主体性」の因子構造を確認した。次に尺度のクロンバックα係数を算出し、信頼性を確認した。最後に、項目得点が中庸な場合に「子どもの主体性を育てる親の主体性」が高くなる項目と、因子分析の結果、各因子に対する負荷量が 0.35 未満だったため除外した項目のうち、親と支援者の協働作業の過程の中で、親自身が自己の子育ての課題目標を設定するためのツールとして必要であると判断した項目について、「子どもの主体性を育てる親の主体性」得点との相関係数を算出した。

4）　**表 2.「子どもの主体性を育てる親の主体性」因子　　全 14 項目α＝.804**

項　目	F1	F2	F3	共通性
第1因子「他者との関係性における自分との折り合い」　α＝.745				
28. 自分は、自分に折り合いをつけることが下手だと思います(*)	**0.797**	0.124	-0.206	0.630
21. 人の目ばかり気にして、自分を失いそうになるときがあります(*)	**0.639**	0.127	-0.089	0.453
27. 自分は、親として以外の自分に満足していません(*)	**0.578**	-0.054	-0.058	0.285
20. 人間関係を煩わしく思います(*)	**0.536**	0.073	0.125	0.407
11. 自分は自分なりの生き方を主体的に選んでいると思います	**0.445**	-0.108	0.198	0.266
19. 地域の他の親と交流して楽しいと感じます	**0.388**	-0.236	0.277	0.248
第2因子「子どもとの関係性における自分の気持ちや思いへの過剰な関心」　α＝.782				
2. 子どもが思い通りにならなくて、つらいことが多いと思います(*)	0.006	**0.840**	-0.037	0.691
3. 子どもとの関係で、感情的になることが多いです(*)	-0.018	**0.809**	0.029	0.656
14. 自分の子どもと一緒にいることから逃避したいと思うことがあります(*)	0.027	**0.553**	0.135	0.388
第3因子「親アイデンティティの発達」　α＝.653				
12. 自分の子どもと一緒にいて楽しいです	-0.071	0.129	**0.759**	0.605
13. 自分の子どもの楽しそうな笑顔をみると、自分もうれしくなります	-0.129	0.012	**0.570**	0.283
6. 自分は親になって良かったと思います	0.280	-0.010	**0.534**	0.485
18. 自分の子どもには、いつも自分から声をかけるように心がけています	0.019	0.098	**0.472**	0.271
8. 自分は親としての役割を果たすために努力したいと思っています	-0.015	-0.039	**0.381**	0.133
因子寄与	3.566	1.218	1.018	
因子間相関 F1	1.000			
F2	0.463	1.000		
F3	0.423	0.314	1.000	

因子抽出法：最尤法　回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法
＊逆転項目　　項目文の前の番号は実際の調査票内の番号である

データを分析した結果、子どもの主体性を育てる親の主体性分析として、「他者との関係性における自分との折り合い」「子どもとの関係性における自分の気持ちや思いへの過剰な関心」「親アイデンティティの発達」の３つの構成概念からなる 14 項目の尺度が求められた。さらに、この尺度項目以外の項目として、子どもの主体性を育てるために重要とされる親の「基本的自尊感情」の項目を加えた。また、尺度というツールが高得点になるほど成熟や発達を意味するため、バランスを要する人の主体性を測ることには限界があったため、子どもの主体性が育つ上で、「中庸」であることが望ましいと考えられる親の「社会的自尊感情」と「期待、規範、理想」の項目を加えた。
結果として、「子どもの主体性を育てる親の主体性分析シート」（図 2）という、ツールが完成した。

子どもの主体性を育てる親の主体性分析	当てはまる程度 ←……→ とても当てはまる ～ まったく当てはまらない	得　点
【他者との関係性における自分との折り合い】		
1. 自分は、自分に折り合いをつけることが下手だと思います	1……2……3……4……5	合計得点
2. 人の目ばかり気にして、自分を失いそうになるときがあります	1……2……3……4……5	
3. 自分は、親として以外の自分に満足していません	1……2……3……4……5	÷6
4. 人間関係を煩わしく思います	1……2……3……4……5	＝
5. 自分は自分なりの生き方を主体的に選んでいると思います	5……4……3……2……1	
6. 地域の他の親と交流して楽しいと感じます	5……4……3……2……1	点
【子どもとの関係性における自分の気持ちや思いへの過剰な関心】		
7. 子どもが思い通りにならなくて、つらいことが多いと思います	1……2……3……4……5	合計得点
8. 子どもとの関係で、感情的になることが多いです	1……2……3……4……5	÷3
9. 自分の子どもと一緒にいることから逃避したいと思うことがあります	1……2……3……4……5	＝ 点
【親アイデンティティの発達】		
10. 自分の子どもと一緒にいて楽しいです	5……4……3……2……1	合計得点
11. 自分の子どもの楽しそうな笑顔をみると、自分もうれしくなります	5……4……3……2……1	
12. 自分は親になって良かったと思います	5……4……3……2……1	÷5
13. 自分の子どもには、いつも自分から声をかけるように心がけています	5……4……3……2……1	＝
14. 自分は親としての役割を果たすために努力したいと思っています	5……4……3……2……1	点
【基本的自尊感情】		
15. 自分には一人の人間としていいところがたくさんあると思います	5……4……3……2……1	点
【社会的自尊感情】		
16. 自分は親として他の人より優れていると思います	5……4……3……2……1	点
【期待、規範、理想】		
17. 子どもが目標を達成するまで頑張らせます	5……4……3……2……1	点

図２「子どもの主体性を育てる親の主体性分析シート」

（2）DVD の作成
①「ゆりかごラーニング～楽しいしつけの提案～」
1）概要
「子どもの心の発達を支える親の役割―主体性と自尊感情を大切にするしつけ」＝「ゆりかごラーニング～楽しいしつけの提案」の DVD を作成した。作成期間 2016 年 3 月～2017 年 7 月。

2）理論的柱
本研究の「しつけ」は、「受容」と「自律性育成」がその具体的内容となる。自律性は基本的信頼感の上に立つものである（Erikson,E.H)。基本的信頼感の中心的核は「子どもの主体受容」である。本研究は、特に子どもの基本的信頼感が育つ 0 歳から 2 歳ぐらいを育てる親を対象とし、子どもの主体受容＝子どもの自己肯定感、自尊感情を大切にする親と子の関係性＝しつけを中心に構成した。

3）内容（抜粋）
映像１：『このゆりかごラーニングでは、楽しいしつけを提案します。親と子の信頼のきずなをつくること、また、人とのつながりを大切にしながら、自分の意見を伝えることが出来る子どもを育てることを、目的にしています』

（映像１）

映像２：『親が一人二役になって、楽しく語りかけていますね。このような語りかけによって、親の考え方、感じ方が、子どもの心の中で育ち、子ども自身の考え方、感じ方をつくっていきます。このような親の肯定的な語りかけが、楽しいしつけのスタートになります。』

（映像２）

映像３：『こどもと向き合い子どもの目をみてお手本をみせます。次の例も同様ですね。「子どもと一緒に」という意識を親自身が大切にします。そうすることで自然と子どもに手をそえて教えることへつながります。』

（映像３）

②DVD の作成 2：「ゆりかごラーニング～親である自分を大切にする～」

1）概要

子どもの心の発達を支える親の役割 2 として―　親の主体性を育てる＝「ゆりかごラーニング～親である自分を大切にする」の DVD を作成した。作成期間は 2017 年 10 月～2018 年 3 月。

2）理論的柱

エリクソンの心理社会的発達課題は、社会的存在である人の関係性を作るための課題でもある。親（大人）にとっても、主体を認められること＝自己肯定感、自尊感情を大切にすることが、他者との関係性を相互的なものとし、自ら（親）の主体性を発達する。本研究ではその仕掛けづくりを　社会的子育て支援サービスが担うことを柱として構成した。

3）内容（抜粋）

映像 4：『この「ゆりかごラーニング」では、親である自分をどのようにして大切にしたらよいのか、そして、親との関係性によって大きく左右される子どもの幸福をどのように実現していくのか、それをみなさんと考えます。』

（映像 4）

映像 5：『みなさんは、「子育てサークル」を知っていますか？　子育てサークルは 1980 年代後半に自然発生的に誕生しました。親の子育てを楽しいものにすることによって、その対象である子どもも楽しくなる、という当然の関係が、誰にもわかりやすく手軽にできることで、全国に広がったのだと思われます。　さて、今回紹介するのは、大阪で活動しているピーカーブーという子育てサークルです。』

（映像 5）

映像 6：『人の心の発達は他者とのコミュニケーションによって育まれます。これは、子どもであっても大人であっても同じです。
相手を認めること、関心をもつことによって信頼関係をつくり、相手から大切にされる、つまり、自分を大切にすることができます。人とのつながりが作りにくい現代において、子育て支援サービスを利用することで、「親という役割をもった人」の心の成長を促すこ

とができます。そして、家族や友人、子どもとの関係性をバランスのあるものにし、子育てを楽しいものにすることができるのです。』

（映像 6）

（3）「ゆりかごラーニング」DVD と理論の効果検証

①概要

2017 年度における子育て支援者に向けた講演、研修からアンケート調査を行い、DVD、理論構成等の評価を行った。

②調査対象と調査方法

親と子の関係性、主体性の育成に向けたパワーポイントを活用した研修、講演の後に DVD「ゆりかごラーニング～楽しいしつけの提案～」を視聴し、ディスカッション後、自記式アンケート調査を行い、その場で回収した。調査対象と研修・講演概要は、以下の A～D の通りである。

A　民間保育園連盟保育士

保育者特別研修「子どもの自尊感情を育てる保育」（2017 年 11 月 9 日）

南大阪ブロック民間保育園連盟主催。南大阪ブロック民間保育園に所属して幹部保育士約 40 名が参加。於：高向保育園（河内長野市）

B　利用者支援専門員

大阪市利用者支援専門員研修会「子育て支援者講座～親と子のきずなを深めるために」（2018 年 1 月 15 日）大阪市青少年局主催。大阪市利用者支援専門員約 30 名を対象。於：大阪市職員人材開発センター（あべのフォルサ）

C　放課後等ディサービス職員

西淀川区放課後等ディサービス職員研集会「ゆりかごラーニング　親と子のきずなを深める」（2018 年 2 月 20 日）西淀川区主催。職員約 30 名が参加した。　於：西淀川区役所。

D　研究協力者　NPO 法人おひさま職員

子育て支援者養成講座 2　「ゆりかごラーニング～楽しいしつけの提案」（2017 年 7 月 4 日）NPO 法人おひさま主催。NPO 法人おひさまの児童指導員、保育士など約 20 名が参加。於：多機能型事業所「さんさんくらぶ」、児童発達支援事業 親子療育教室「にじくじら」。

③調査結果

各質問項目に対して 3 件法（とてもわかりやすい、わかりやすい、今ひとつ理解できない）に分け、それぞれとてもわかりやすい＝3、わかりやすい＝2、今ひとつ理解できない＝1 に得点化した。その平均値のまとめが表 3 である。概ね、「とてもわかりやすい」を選択し、DVD とその理論は支援者にとって受け入れられやすいものであると評価できる。

表 3「ゆりかごラーニング」の DVD と理論における全体的理解　―子育て支援者別による評価

項目	とてもわかりやすい(%)	わかりやすい(%)	今ひとつ理解できない(%)
①民間保育園連盟保育士	73.1%	26.9%	0.0%
②利用者支援専門員	57.1%	42.9%	0.0%
③放課後等デイサービス職員	40.0%	55.0%	5.0%
④研究協力者(おひさま職員)	83.3%	16.7%	0.0%
全体	62.0%	36.7%	1.3%

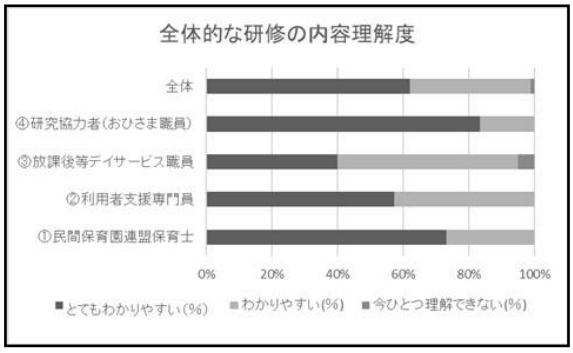

図 3 子育て支援者別における「全体的内容の理解」の内訳

（4）効果検証を踏まえた本研究の課題

①「ゆりかごラーニング」DVD と理論における支援者の評価調査結果から、主体性、関係性の発達における具体的理解に、支援者によって大きく差があることが明らかになった。研究協力者は当然のことながら、理論と実践を重ねているので、理解度が最も高い。次に保育士は、エリクソンの心理社会的発達課題理論を習得し、保育所では基本的な理論になりつつあり、保育や子育て支援に生かしている事例が多く報告されている。利用者支援専門員や放課後等デイサービス職員は、子どもの発達段階の知識や理解について、やや弱い面があり、関係性についても具体的な関わり方の知識が少ないようである。

このような時に映像は効果的である。さらに具体的な場面、関わり方、理論を含めた DVD を制作したいと考えている。

②多くの支援者から、DVD、パワーポイントを活用した指導書のようなものを作って欲しいという要望が出された。先ず、支援者が理論と実践を自分のものにし、支援者と親の関係性から親に理論と実践を伝えられる指導書を作ること、さらに、親が家庭で子どもとの関係性を円滑にし、子どもの主体性を発達させることができるように、そのような道筋をもった完成度の高い支援プログラムを構築したいと考える。

③定型発達の子どももそうでない子どもも、同じ人としての主体性の発達をもっているが、支援者の話から、非定型発達の保護者は、子どもの障がいを受け入れられないまま、子どもの主体を受容できない、関係性や主体性を発達させるための環境づくりが出来ない、という側面をもつケースが多い、ということである。発達障害のある子どもの最善の利益を保障できる DVD を早急につくる必要性を感じている。

④「ゆりかごラーニング」としては、表 4 にあるように、内在的自己との関係性をわかりやすく描いた DVD「思い通りにならない感情に付き合う方法」の制作が課題である。本研究の 2 作を含めて 3 部作によって、ゆりかごラーニング＝関係性による親と子の主体性の発達の DVD と理論を完成させたいと考えている。

映像タイトル	内容	関係性
ゆりかごラーニング1 「『思い通りにならない』感情につき合う方法」	自己の意識構造を前提に、どのように自分と折り合ったらいいのか、「つらい」という感情をキーワードに、感情発生の意味とその抑制やコントロール方法を示す	内在的自己との関係性
ゆりかごラーニング2 「親になった自分を大切にする」	親の自己肯定感や自己効力感を高めるために、地域の子育て支援を利用する意味と、その支援内容の紹介(約15分)	他者＝家族、子育て支援者、子育て仲間との関係性
ゆりかごラーニング3 「楽しいしつけの提案」	子どもの自尊感情をキーワードとして、親と子の関係性を「しつけ」として映像化した。子どもを認めるとはどういうことなのかを具体的に映像化し、親と子の相互主体的な関係性が成立するとき、親も子も楽しいことを示した。(約30分)	子どもとの関係性

表４「ゆりかごラーニング」３部作

〈引用文献〉
安井理夫、明石書店、実存的・科学的ソーシャルワーク　エコシステム構想にもとづく支援技術、2009、130－131

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計１　件）

寺田恭子、野原留美、赤井綾美、田宝敏美、子どもの主体性を育てる親の主体性分析に関する研究―親と子の関係性の視点から―、査読無、プール学院大学研究紀要第 57 号、pp.393-408、2016 年
www.poole.ac.jp/library/kiyo/Tosyo_Kiyo2016_5729.pdf

〔その他〕
①科学研究報告書
寺田恭子、松久眞実、野原留美、近棟健二、堀　千代　他　2018
②DVD「ゆりかごラーニング～親である自分を大切にする」2018：寺田恭子、原博美、松久眞実、近棟健二　他
③DVD「ゆりかごラーニング～楽しいしつけの提案」2017：寺田恭子、原博美、野原留美、堀千代

６．研究組織
(1)研究代表者
寺田　恭子（TERADA Kyoko）
プール学院大学短期大学部幼児教育保育学科・教授
研究者番号：30369673

(2)研究分担者
松久　眞実（MZTUHISA Manami）
プール学院大学教育学部・准教授
研究者番号：60586121

野原　留美（NOHARA Rumi）
千里金蘭大学看護学部・講師
研究者番号：90593749

近棟 健二（CHIKAMUNE Kenzi）
種智院大学人文学部・准教授
研究者番号：10610678

(3)連携研究者
堀　千代　（HORI Chiyo　）
常磐会短期大学・准教授
研究者番号：　60584141

(4)研究協力者
原　博美　（HARA Hiromi）
藤本 聖子　（FUJIMOTO Seiko）
田島 知之　（TAZIMA Tomoyuki）
駒崎 順子　（KOMAZAKI Junko）
広畑 美枝子（HIROHATA Mieko）
藤野 匠悟　（FIJINO Shogo）
駿河　央　（SURUGA Akira）
和田 憲明　（WADA Noriaki）
田島 真知子（TAZIMA Machiko）
赤井 綾美　（AKAI Ayami）
西村 直子　（NISHIMURA Naoko）
大内田 真理（OUCHIDA Mari）
大土 恵子　（OTSUCHI Keiko）
作野 理恵　（SAKUNO Rie）
若林 素子　（WAKABAYASI Motoko）
小西 和子　（KONISHI Kazuko）
濱田 恵美子（HAMADA EMIKO）
福田 留美　（FUKUDA Rumi）
涌嶋 嘉子　（WAKUSHIMA Yoshiko）